

R7年度 学校評価について

今年度の学校教育目標に関わり、教職員・児童・保護者にアンケートを取りました。

1. 教職員（1学期末・2学期末）の結果より

〇めざす児童像（8項目）

1学期と比較してポイントが下がった項目について、今後の対策を考える

児童4：児童は進んで友達とコミュニケーションを図ろうとしている

本校はQUも年に2回行っている。児童のアンケートで気になる回答をしている児童は、QUでも気になる位置にいる。両方で洗い出された児童に対しては担任や指導に関わる職員が様子を気を付けてみたり、声をかけてみたりするようにすることを全職員での共通理解を図った。

児童6：児童はハンカチ・ティッシュを携行し、手洗いうがいなどの衛生に気を付けている

1学期と比べて「A:あてはまる/そうである」の割合が大幅に減った。ハンカチ・ティッシュは衛生面で必要な物というだけでなく、避難時などにも使用するものなので携帯を呼びかけたい。クラスによっては朝の健康観察時に携帯を確認している。確認することに加え、いつも携帯していない児童への指導もする。

児童7：児童は自分で考え、判断して行動する力が身についている

1学期と比べて「D:あてはまらない/そうでない」の割合が増えた。「A:あてはまる/そうである」と「B:ややあてはまる/ややそうである」の割合の和は、1学期の82.1%から2学期は81.5%と大きな変化はないがAの割合が増えている。判断し行動する力は得意・不得意に個人差があるものであるが、予測不可能な社会を生きていく児童にとって大切な力なので、引き続き指導をするようにする。

〇めざす学校像（13項目）

学校2：西条小では地震、引き渡しなどの訓練が適切に実施されている

1学期と比べて「C:あまりあてはまらない/あまりそうでない」が増えた。訓練後の振り返りで上がってきた改善点を次の訓練に生かすように心がけていく。

学校4：自分が困っているときや悩んでいるときなどに、周りの職員に相談できる雰囲気、助けてもらえる雰囲気が西条小にはある

AとBの和について、1学期は97.5%であったのに対し、2学期は89.3%と下がった。2学期は多くの大きな行事があり忙しかった。忙しさにつながる内容から削減できるものを積極的に探し、教職員間の情報共有や打ち合わせの時間などが確保できるような余裕が少しでも生み出せるようにしていきたい。

学校6：西条小の学校、学年の各行事の運営では、児童の主体的な活動になるよう、職員同士で協力して取り組んでいる

「西条小の学校、学年の各行事の運営では、児童の主体的な活動になるよう、職員同士で協力して取り組んでいる」の結果は1学期と比べてAの評価が増えたものの、Cの評価も増えた。行事が立て込む2学期は取組時間の短さから、児童の主体的な活動のために十分な時間的余裕を持つことが難しい。「児童の主体的な活動」、「教師同士で協力」の2点について留意していくが、同時にそれらの活動を丁寧に準備できる時間の生み出しも考える必要がある。

〇めざす教師像（9項目）

教師5：自分は児童の問題解決力習得のために、意識して授業展開を工夫している

「自分は児童の問題解決力習得のために、意識して授業展開を工夫している」について、1学期には無かったDの自己評価がある。2学期は研究授業や講演などが複数あり、授業についての学びの機会が多くあった。1学期に比べてAの評価が上がったのは研究等で学んだことを実践した教職員が多かったためであると考えられる。Dの評価が出た要因を考えると、「児童の問題解決力習得」のための授業は教材研究など準備にも時間が必要であるので、行事等多忙な2学期にはそのような時間を持つことが難しかったこともあると考えられる。

2. 児童（2学期末）の結果より

学年が上がると「手をあげて発表していますか」の項目の肯定的な割合が下がる。友達とのかかわりや学校生活が楽しいかを尋ねる質問で「あまり」や「ぜんぜん」を選んでいる児童は、「なんでも話せる友達がありますか」の質問においても否定的な選択肢を選んでいる。またこれらの児童はどの学年においても、QUでも気になる結果が出ている。

QUの分析、学校評価での児童の回答などを見ながら3学期の指導にあたり、クラス替えを考える材料としていく。

3. 保護者（2学期末）の結果より

1. 学校運営に関わる質問11項目

A:そう思う、B:ややそう思うの割合が低かった質問事項は「⑦学校にはクラスのことや子どものこと、そのほかのことで相談できる雰囲気がある。」であった。保護者が困りごとがある時、日常的な相談は担任にしようと思うが、担任以外の職員に相談できる雰囲気づくりが必要である。

【これからの取組】

学年間の連携の方法、保健室の相談体制、管理職への連絡と報告、相談などについて再確認を行う。

普段からの保護者への接し方、電話での対応について職員間で再確認をする。忙しくても丁寧に対応することを心がけるようにする。

「子どもを良くしたい」という教職員も保護者も共通に持っている願いがある事を忘れずに対応する。

2. 自由記述より

【今後解決、現状を続けるためにに向けて取り組むこと】

- ・ 教材費の引き落とし等の取組を他校とも連携して行う。
- ・ HPのブログ、学年のおたよりなどで児童の様子を伝えていく。
- ・ 難しい児童への対応、保護者との連携を大切にする。
- ・ メールやおたよりの誤りが無いよう、起案者、教頭が共に気を付ける。

* 写真販売について

- ・ 写真販売は行わない。

《理由》

教育活動以外の業務であり、集金業務が増える。

●QUとは

楽しい学校生活を送るためのアンケート＝Q-U（Questionnaire-Utilites）は、子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらには学級集団の状態を調べることができます。20分程度のアンケートに児童が答えるものです。

Q-Uのねらいは「学級生活の充実」「人間関係づくりの支援」「学級づくりの支援」です。集団であるための条件は「承認感」と「安全・所属感」です。以下のものを参考にして、担任が自分の学級経営を振り返る材料にします。

●QUを行うとえられるもの

- (I) 学級の全体の様子わかる「まとめ」
- (II) 児童一人一人の「学校生活意欲」のグラフ
- (III) 児童アンケートへの回答一覧
- (IV) 継続しておこなっている場合、前回との比較